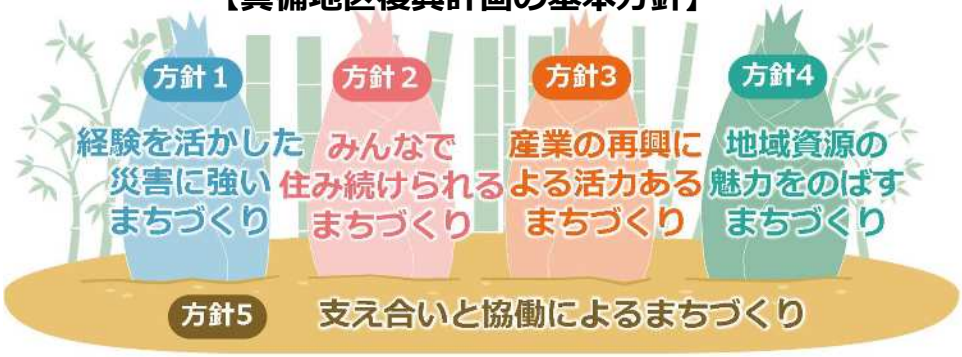
資料2

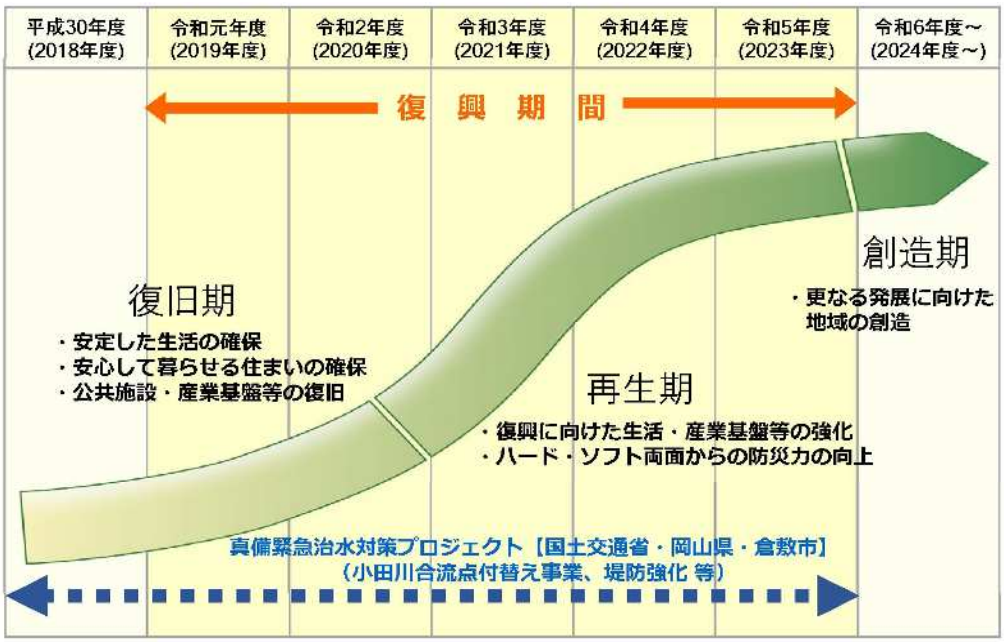
真備地区における
地域の活動について

【真備地区復興計画の基本理念】

豊かな自然と歴史・文化を未来へつなぐ真備
～安心・きずな・育みのまち～

【真備地区復興計画の基本方針】





復旧・再生に関する取組に限らず、より長期的な将来を見据え、創造的な新しいまちづくりを推進するなど、**『復旧しながら、再生を図り、再生しながらより良い地域を創造していく』**ことを目指す。

【方針１】経験を活かした災害に強いまちづくり

地区ごとの防災・減災体制づくり（地区防災計画の策定など）

倉敷市

○ 平成３０年７月豪雨災害を経験された避難者による生の声を活かして、他地区での防災・減災体制づくりのための防災講演会などを実施

【活動事例】他地区での防災・減災体制づくりへの支援

五福学区での被災経験の講演経緯

- 平成３０年７月豪雨災害の際、五福小体育館には真備地区から多くの方々が避難されてきたが、災害についてのお話を聞く機会があまりなく、五福学区の地区防災計画作成に向けた集まりでの講演要請があった

講演の内容　「平成３０年７月豪雨災害を経験して」

・夜間の泥水の怖さと被災状況
・消防団員として避難を呼びかけ。消防・自衛隊と２日間の救助活動
・アルミ工場爆発と避難開始
・災害への備えの大切さ
・近所同士での助け合い　など

【講演の様子】

参加者からの感想

- 日ごろからの備えや子どもの呼びかけも大切さを知ることができた
- 近所同士で助け合う大切さを学んだ
- 頼りになるのは、地域の力

【方針１】経験を活かした災害に強いまちづくり

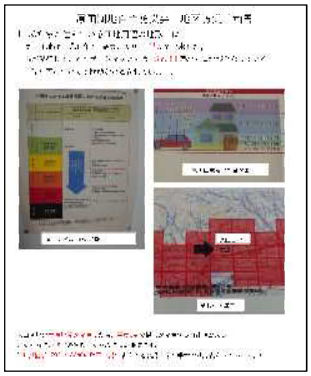
地区ごとの防災・減災体制づくり（地区防災計画の策定など）

倉敷市

○ 各地区の住民等による避難計画など、地区防災計画の策定・検討が進む

【活動事例】原田団地自主防災会（呉妹地区）

「大雨、台風、地震があった時のための冊子」



改訂された地区防災計画

計画策定までの流れ

令和２年８月	意識啓発（セミナー参加） 計画（素案）の作成に着手
令和２年10月	会議で計画（素案）の合意形成
令和２年11月	市へ計画（素案）を提案
令和３年１月	市地域防災計画へ反映

計画の運用及び改訂について

- 令和４年度から、洪水・土砂災害時の指定緊急避難所に真備総合公園体育館が新たに指定されたのを受け、地区防災計画の「避難する場所」に「真備総合公園体育館」を追記（改訂）
- 地区防災計画に基づき、毎年、倉敷市が開催する倉敷市総合防災訓練に合わせ、新たに避難する場所に追記した「真備総合公園体育館」への避難訓練を実施

【真備総合公園体育館】

【方針１】経験を活かした災害に強いまちづくり

自然災害伝承碑の登録・活用

倉敷市

○「自然災害伝承碑 」は、過去の大規模な自然災害の状況や教訓を後世に伝え残すために作られた碑やモニュメント
○「地域の防災意識の向上に役立つ」として、平成３１年３月に国土地理院が地図記号を定め、地理院地図へ掲載
○ 現在、倉敷市内で１０箇所の自然災害伝承碑が登録（真備地区は６箇所）

平成３０年７月豪雨災害の碑
（倉敷市真備町箭田）

【方針１】経験を活かした災害に強いまちづくり

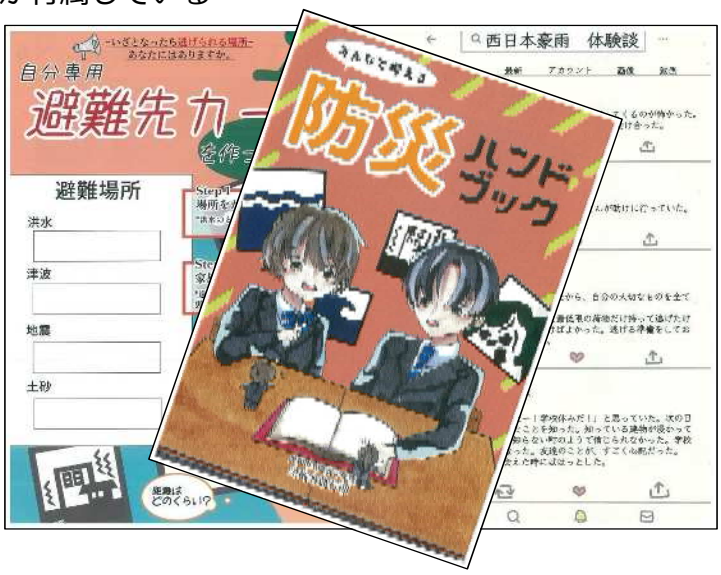
防災・減災体制づくり（中学生が作成する防災ハンドブック）

倉敷市

○ 真備中学校の生徒が、被災経験を基に、災害時に中学生が一人で居るときでも、素早く判断して行動できることを目標として、防災に関する知識をまとめたハンドブックを作成
○ 授業の際に副読本として活用しているほか、市内中学校及び公民館へ配付することで、教訓を多くの人に伝える活動を行っている。

川辺みらいミーティング

・令和４年４月から制作を始め、全校生徒約２００人に避難の際、困ったことや気づき等をアンケート形式で聞き取りを行い、中学生目線での防災ノウハウや体験談をとりまとめた
・避難先カードや非常持ち出し品リストが付属している



【方針１】経験を活かした災害に強いまちづくり

安全な住宅の再建促進（浸水に強い建て方などの普及啓発）

倉敷市

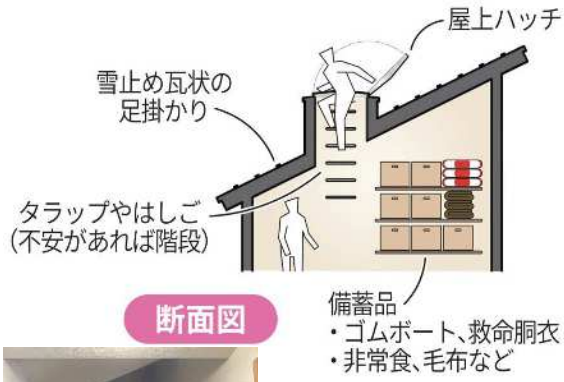
○ 浸水に強い住宅の建て方等についてHP等により事例紹介し、建築士会等と連携した建築相談会を開催（平成31年年度から令和４年度末まで計１９回）

○ 建築相談会では、水害被災住宅の修理や再建に関する不安や疑問について、岡山県建築士会倉敷支部が作成した冊子等を活用し、建築士が技術的サポートを実施

【自宅避難の際、屋根まで垂直避難できる家】（真備地区の個人復興住宅）

屋上ハッチ

- 屋根に設けて、浸水時に万が一逃げられなかった場合に備える



断面図

屋上ハッチ下部の非常品置き場

- 手前に掛けている梯子は、中段に上がるときに壁から外して使用

【建築士会の作成冊子】

【建築相談会の様子】

【方針２】みんなで住み続けられるまちづくり

移住者交流の場づくり（県外から高梁川流域圏へ移住した方の交流会）

倉敷市

○ 倉敷市へ移住した方々同士がゆったりと対話できる場を提供。真備の魅力も発信

移住者おしゃべり会　in真備　(復興支援イベント)

（放課後等デイサービス「ホハル」代表　滝沢達史さん）

日　時　令和５年3月4日
場　所　倉敷市真備保健福祉館　まびいきいきプラザ会議室
参加者　７名

- 市内移住者が集い、真備の復興状況や地域の取組を共有
- 代表の滝沢さんは、平成２９年に東京から倉敷市に移住
- 平成３０年４月に子どもの放課後の遊び場「ホハル」を真備に設立したが、３か月後に被災。その後、１カ月で施設を再開させ、炊き出し拠点にも活用

おしゃべり会の様子

自家用車常備の防災セットの紹介

【方針２】みんなで住み続けられるまちづくり

暮らしを支える公共施設の復旧（地域団体による施設利用の再開）

倉敷市

○ 公共施設の復旧が完了し、地域団体などによる交流活動や健康づくりなど、施設利用が再開

【真備図書館】 英語の絵本のおはなし会

【真備人権ふれあい館】わくわく理科工作

【玉島消防署真備分署】 高所作業訓練

【真備公民館】 生け花講座

【方針３】産業の再興による活力あるまちづくり

農業の再興（真備地区での新規就農）

倉敷市

○ 豪雨災害以降に１０人の新規就農（ぶどう、もも、野菜）があり、新たな地域の担い手として活躍

○ 令和７年度に１名（研修中）が新規就農（ぶどう）を予定

○ ぶどう栽培農家：
片岡かおり（かたおか かおり）さん

・２０年以上の病院勤務の後、約１０カ月の研修を経て、令和３年１０月に就農
・２３ａの農地でシャインマスカットを栽培
・真備地区のぶどう農家と協力し、真備ぶどうの生産振興を目指し営農
・認定農業者の取得に向けて技術向上に取組中

【方針３】産業の再興による活力あるまちづくり

農業の再興（農業を核とする交流「体験型農園」の開設）

倉敷市

○ 被災により地域を離れざるをえなかった方と地域の方が共に汗を流し語らう、また気軽に農業を楽しみたい方を広く受け入れる交流の場として、まちづくり推進協議会と市が連携し「やた体験型農園」を開設（令和５年９月10日）

○ 「作業体験会」には約３０名の参加があった。現在、１０名の入園者があり、継続して募集（定員：３０名）を行っている

やた体験型農園
※休憩所（奥の緑のテント）・仮設トイレ等を設置

作業体験会（令和5年9月10日）の開催状況
※タマネギの植え付け

【方針３】産業の再興による活力あるまちづくり

地域企業の再興（真備地区での起業）

倉敷市

○ 真備地区において、真備地区創業支援補助金などを活用し、新規事業者が起業

○ キャンプ用品の製造・販売

（アイアン工房CAMP SHOP）

- 二万地区の在住で、災害後に会社員を辞めて工房をスタート
- アイアンを使用した雰囲気ある道具を製作
- 今では、全国から多くの注文が入る
- 「創業支援補助金は、初期の広報費や機材購入に役立ち大変有難かった」「家族総出で頑張っている」（店主）

○ 犬と一緒に楽しめる飲食店

（Café DOUDOU）

- 人とペットが憩える場を目指して創業
- ドッグランとペットホテルを併設し、ペットがストレスなく過ごせる環境を提供
- 自家製ベーコンを使ったホットサンドやドリアが人気、ペット用のメニューもある
- 「将来は犬と人の幸せな出会いの場を創っていきたい」（店主）

【方針３】産業の再興による活力あるまちづくり

賑わいと交流の創出（後援制度を活用した民間団体によるイベント開催）

倉敷市

○ 真備地区において、市の後援制度などを活用し、地域団体等による復興応援を目的としたイベントを開催

復興まちづくりシンポジウム
（国立大学法人岡山大学）
日　時　令和５年7月12日
場　所　岡山大学創立五十周年記念館
来場者　約2,700名

ボランティア経験者によるリレートーク
および行政、関係団体等との対談

復興阿吽際２０２３　(復興支援イベント)
（FMくらしき・真備船穂商工会青年部）
日　時　令和５年9月16日、17日
場　所　マービーふれあいセンター　竹ホール
来場者　約2,000名

ラジオ公開生放送

「みらいのまび」絵画コンクール表彰

【方針４】地域資源の魅力をのばすまちづくり

豊かな自然と歴史･文化の魅力を発信

倉敷市

○ 地域団体が中心となり、吉備真備公を偲ぶ祭事や催し物、真備の歴史巡りなどが企画・実施されている

第７５回吉備真備公弾琴祭（だんきんさい）
（吉備真備公弾琴祭実行委員会）
日　時　令和５年9月30日
場　所　真備町妹・猿掛地内、小田川河畔琴弾岩
来場者　約６００名

琴と尺八の演奏と祭事

出店やイベントなど

真備の歴史巡り
（フォーラム２０００まび）
日　時　令和５年3月26日
場　所　猿掛山（猿掛城跡）
来場者　約２０名

猿掛城跡への登山イベント

【方針４】地域資源の魅力をのばすまちづくり

豊かな自然と歴史・文化の魅力を発信（災害経験と復興状況の発信）

倉敷市

○ 全国の自治体等からの視察を受け入れ、災害の経験の共有や復興状況を発信

姉妹都市クライストチャーチ市代表団（R5.9.29）

学生向けのインターンシップ（R5.8.30）

香川県三豊市自治会連合会（R5.10.3）

＜災害復興推進室　視察等の受け入れ状況＞

年度	件数
H30-H31	19
R2	2
R3	10
R4	13
R5	14
合計	58件

【方針５】支え合いと協働によるまちづくり

被災者の交流機会の創出（避難所同窓会の開催）

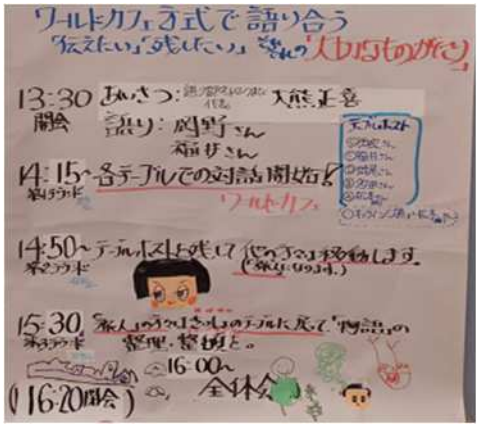
倉敷市

○ 平成30年西日本豪雨災害の真備地区被災者による「語り部」活動支援事業
○ 指定緊急避難場所の生活で「大変だったこと・良かったこと」などを、参加者同士で語り合う会を開催。現在も前向きな被災者間の交流が続いている

岡田小学校の避難所同窓会
（語り部ネットワークまび：市民企画提案事業）

日　時　令和５年7月2日（日）13:30～16:30
場　所　マービーふれあいセンター 展示室
来場者　約35名
当時生活された住民、当時の岡田小教頭、社協生活支援コーディネーター、運営支援団体、市防災推進課など

- 5グループとオンラインに分かれて、ワールドカフェ形式で当時を振り返り、意見交換
- 主な意見としては、「当時は被災ショックで学校や市職員へよく文句を言ったが、本当に良く対応してくれた」「避難所生活は大変だったが、新しい知人もできて楽しかった」「学校も子どもたちに丁寧に接してくれたので、夏休み後も喜んで登校していた」などがあった



参加者同士の交流

住民主体のまちづくり（地域の復興を支える人づくり）

○ 真備船穂商工会を受け入れ団体とした「地域おこし協力隊」により、真備地区の復興を産業面から応援

令和元年度～令和３年度　配置隊員２名

【真備地域資源を活用した真備ブランドの商品開発】
竹水化粧水開発、竹工芸技術継承 （地域おこし協力隊）

- 被災事業者の事業再開状況の調査や、真備地区の特産品である竹から採取した竹水を使った化粧水の開発・商品化に取り組む
- その後、本市に定住。起業して、被災前から竹細工の製作販売を行っていた「真備町竹工芸同好会」を「合同会社まび竹工房」に法人化して、竹工芸の技術承継にも取り組んでいる。

令和４年度～　配置隊員１名

【真備の自然を生かしたイベントの開催】
イベントに使用する竹の節抜き （地域おこし協力隊）

- 「真備発のワクワクを創り出す」をテーマに、特産品である竹や竹炭を使ったキャンプ飯の発信や、「タケノコ掘り体験」や「蛍を見る会」といったイベント開催など、真備地区の豊かな自然を活かしたアウトドアビジネスの創出に向け、活発な活動を展開している。